

新潟水俣病の最初のころの被害

ひがい被害

—1965 (昭和 40) 年に発生—

ポイント① 最初の被害



しょうわ 昭和 40 年にとられた、
さいしょ 最初のころの
じゅうしょう 重症患者の写真です。



注目① 最初は重症者や死者もいた

にい がた みな また びょう 新潟水俣病が発生した最初のころは、
じゅうしょう ひ 重症の被害者が多く、死者も出ました。

そのため、新聞などでも毎日のように伝えられ、
当時の日本社会に大きな衝撃をあたえました。

下流の河口近くで、最初に
ひがい 被害者が見つかったのは、川魚の
りょう 漁がさかんでたくさん
食べていたからかな…。



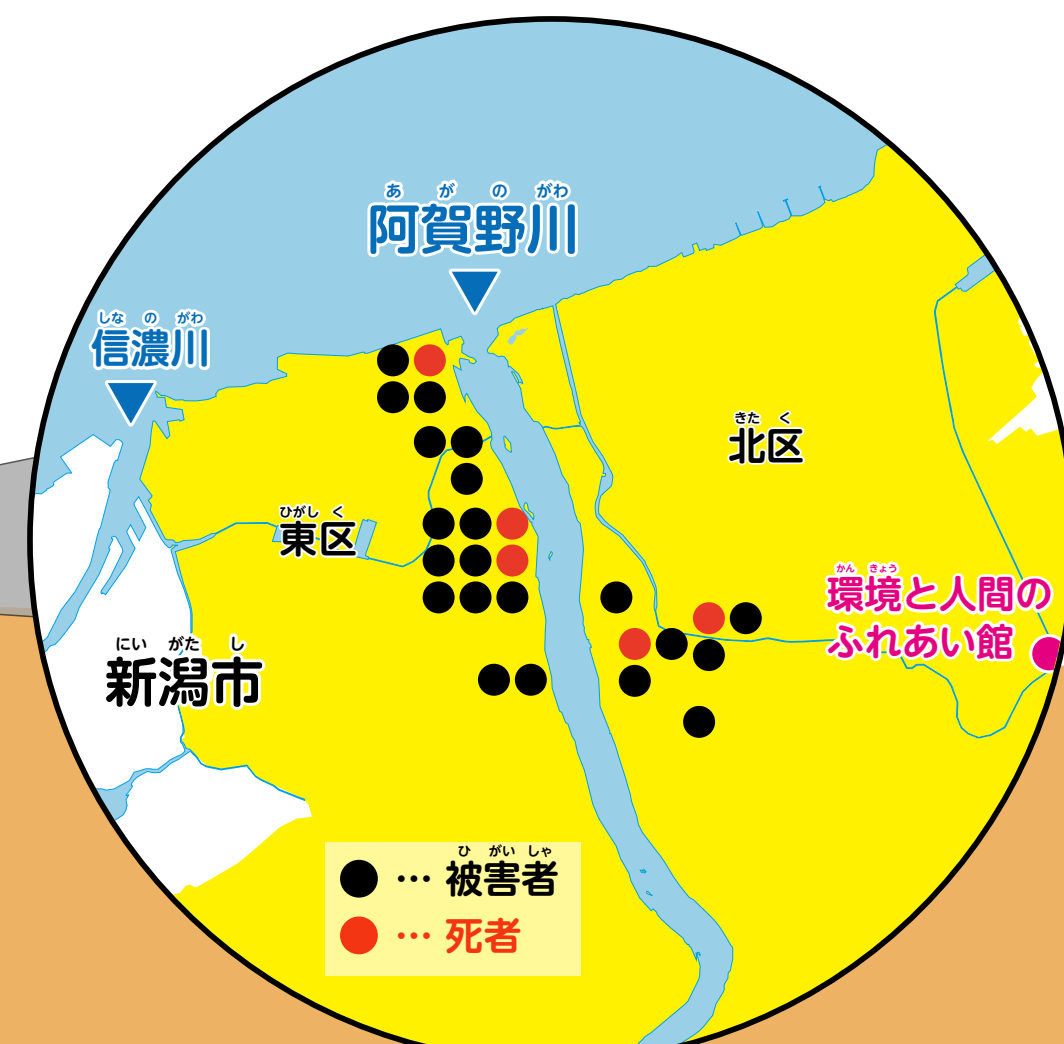
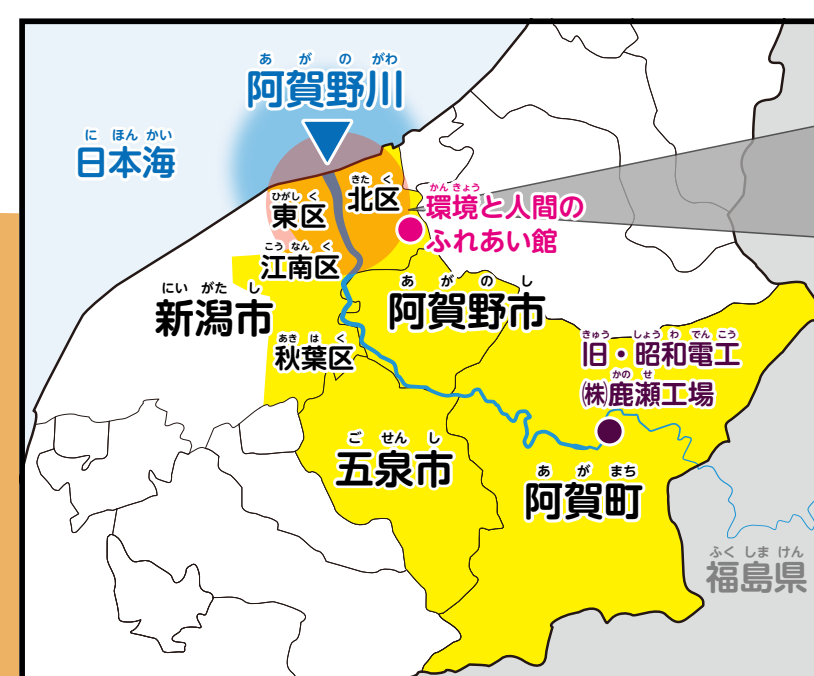
そうかもしれませんね。
にい がた みな また びょう ひがい 新潟水俣病の被害が最初に確認された後、
にい がた けん にい がた だい がく にい がた し きょうりやく 新潟県は、新潟大学や新潟市と協力して、
ちよう さ ひがい すぐに調査や被害者への対応に動き出して、
ゆう き すい ぎん お せん 有機水銀に汚染された川魚を
食べないように指導もしました。



注目② 最初は下流の河口近くで発生した

ひがい 被害者は最初、阿賀野川下流の河口近くの地域で、見
つかりました (▼下の地図)。

その後、下流だけでなく、中・上流をふくめた
広い範囲に被害者がいる
ことがわかりました。



▲最初のころの被害者発生の様子